タイトル
「厚着の天使と裸の王様」

ジャンル：ヒューマンコメディ

上演時間：約２時間

登場人物

倉沢あい（２４）総合ブライダルプロデュース会社「天使のつばさ」社員。漫画家志望。
浅田晴彦（２８）「天使のつばさ」の外部スタッフカメラマン。
本宮武士（３７）「天使のつばさ」社長。
沢村瑞穂（２９）「天使のつばさ」社員。玉の輿に命をかける女。
小早川玲子（３５）「天使のつばさ」社員。
橋本香（２２）「天使のつばさ」の社員。
倉沢昭子（４４）あいの母。
高清水有子（２９）「天使のつばさ」のお客。瑞穂の幼なじみ。
富塚金五郎（３４）有子の婚約者。

男：３名
女：６名
計９名

本編

第一幕第一場

賑やかな客入れの音楽が次第に小さくなっていき、客電も落ちる。
一瞬の間のあと、明るい音楽と明かりがＦ・Ｉ。
総合ブライダルサービス「天使のつばさ」社内。
下手奥に入り口があり、中央に打ち合わせ用のテーブルとソファーセット。上手前に事務机と椅子が幾つか置いてあり、タキシードとウエディングドレスが飾ってある。
下手前にもドアがあり、トイレ等につながっている。
上手奥にはキッチンに行く入り口。
「天使のつばさ」社員、倉沢　あい（２４）と小早川　玲子（３５）そして橋本　香（２２）が忙しそうに働いている。
Ｓ・Ｅ：電話のベル。

あい「はい、総合ブライダルサービス「天使のつばさ」です。･･･あぁいつもお世話になっ

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

ております、倉沢です。･･･はい、その件でしたら･･･」
次第に声のトーンが落ち、聞えなくなると同時に、明かりも少し暗くなる。
Ｓ・Ｅ：さっきのは違う電話のベル。留守番電話に切り替わる。
あい（声）「はい、倉沢です。ただいま外出しております。発信音の後にメッセージをどうぞ」
Ｓ・Ｅ：留守番電話の発信音。
昭子（声）「もしもしあい？　お母さんです。何度も電話してごめんなさい。･･･あの･･･今病院から帰ってきたところです。･･･お父さんね、やっぱりあんまり良くありません。何も言わないけど、あなたに会いたがっていると思います。･･･あいの気持ちはもちろんよく分かってるつもりです。でも･･お父さんの気持ちも少しでいいから分かってあげてください。･･･連絡して下さい。忙しいのは分かるけど、体には気を付けてね。それじゃあ」
Ｓ・Ｅ：電話を切る音。プープーという留守番電話の音。
明かりが元に戻り、あいの電話の声が再び聞こえる。
あい「はい、分かりました。･･･ええ、じゃ、詳しくは来週の水曜日という事でよろしいでしょうか？　１３時ですね、はい伺います。それでは失礼します」
電話を切り、予定表を探すあい。
あい「香ちゃん、ここにあったスケジュール表知らない？」
香「ここにありま～す」
あい「じゃあ、来週の水曜の１３時、『ロシェッタ』打ち合わせって書いといて」
香「は～い」
玲子「倉沢さん、ロシェッタ行くの？」
あい「はい」
玲子「じゃあ、ついでに『パークハイアット』にも行ってくれないかな」
あい「いいですよ」
玲子「本当？！　助かるわぁ！」
あい「席数チェックと花の位置の確認ですね」
玲子「そう。今度ランチ奢るわね」
あい「楽しみにしてま～す！」
キッチンの入り口から沢村　瑞穂（２９）が人数分のコーヒーを持って『てんとう虫のサンバ』を高らかに歌いながら入ってくる。
瑞穂「あなたぁと私が夢の国ぃ、Ｈｅｙ！　森の小さな教会で、結婚式ぃを挙げましたぁ！　は～い皆さん、コーヒー入りましたよぉ。ちょっと休憩しませんことぉ～」
打ち合わせ用のテーブルの上にコーヒーを置きながら、また歌う瑞穂。
瑞穂「あなたぁと私がぁ夢の国、Ｈｅｙ！　森の小さな教会でぇ結婚式を挙げましたぁ～」
瑞穂を横目に、固まってひそひそ話を始めるあい・香・玲子。
香「何かありましたね」

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

玲子「ええ･･･」
あい「昨日の合コンで、また運命の人とめぐり合ったんじゃないの？」
瑞穂「あなたぁと私がぁ夢の国、Ｈｅｙ、Ｈｅｙ！　森の小さな～」
　　　　　　　　　同じメロディを繰り返し歌う瑞穂。
香「今までの運命の人とは、レベルが違いそうですね」
あい「何たって『てんとう虫のサンバ』だもんね」
香「しかも『Ｈｅｙ！』ですよ、『Ｈｅｙ！』」
玲子「あの盛り上がり方は弁護士か医者クラスだわね」
香「プラス瑞穂さんの顔面チェック軽々クリアって感じですね」
玲子「おまけに両親大金持ちってパターンよ、きっと」
瑞穂「皆さん何そんな所でお話なさってるの？　こっちへいらっしゃいよ」
あい「･･･あの言葉遣いからすると、家柄も相当いいですよ」
香「ですね」
瑞穂「早くいらっしゃいったら、コーヒーが冷めてしまうわよ。ホホホッ」
香「（びっくりして）今、ホホホって言いましたよ」
あい「聞こえた･･･」
玲子「いつもはガハハなのにね」
あい「（苦笑)ええ･･･」
瑞穂「あなたぁと私がぁ夢の国、早くぅ、Ｈｅｙ！」
あい「･･･あ、はい」
　　　　　　　　　瑞穂の様子を見つつ、ゆっくりとソファーの方に行き、座る３人。
瑞穂「さぁ召し上がれ」
あい・香・玲子「いただきます･･･」
　　　　　　　　　コーヒーを飲む４人。
瑞穂「あ～美味しいわねぇ。やっぱりコーヒーはブルーマウンテンよねぇ」
香「えっ？！　これってブルーマウンテンなんですか？！」
瑞穂「違うわよ」
香「だって今、コーヒーはブルーマウンテンだって」
瑞穂「ええ、やっぱりコーヒーの王様はブルマンでしょ？」
香「そう、ですけど･･･」
瑞穂「コーヒーはブルマン、男は大金持ち！　ふふっ！　あなたぁと私がぁ～」
玲子「沢村さん」
瑞穂「夢の国ぃ～Ｈｅｙ！」
玲子「沢村さん！」
瑞穂「はい、何ですか？」
玲子「随分ご機嫌ね」
瑞穂「あらっ！　わかりますぅ？」
玲子「そりゃあね」

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

瑞穂「やっぱり心のウキウキって、どんなに押さえつけても出て来てしまうものなのねぇ」
香「あれで押さえてたって事は、随分と押しの強いウキウキなんですね」
あい「今時『てんとう虫のサンバ』だもんね」
瑞穂「あら、歌ってた？　私」
あい「高らかに歌い上げてましたよ」
香「瑞穂さん」
瑞穂「なぁに？」
香「またぐり合っちゃったんですね、運命の人と」
瑞穂「そうなの！　どうして分かったの？！」
香「どうしてって･･･」
あい「その人、相当の金持ちなんですね」
瑞穂「金持ち？　あら全然違うわよ」
あい「違うんですか？！」
瑞穂「ええ、金持ちなんかじゃないの。大金持ちなのよ」
あい「･･･あっそ」
玲子「沢村さんって本当に分かりやすいわよねぇ」
瑞穂「そうですか？」
玲子「だって、好きな男のタイプ・大金持ち。それだけでしょ？」
瑞穂「（当然といわんばかりに)はい」
香「本当にお金持ってたら、不っ細工でも性格悪くてもいいんですか？」
瑞穂「（ケラケラと笑い)当たり前じゃない。やぁねぇもう」
香「でも、不っ細工はまだしも、性格悪かったら相手の事好きになれないんじゃないですか？」
瑞穂「何言ってるの、香ちゃん。相手を好きになるとかならないかなんて、結婚には全然関係ないことじゃない」
香「えっ？」
あい「どうしてですか？」
瑞穂「いやぁねぇ、２人とも。この商売何年やってるの？　ねぇ、玲子さん」
玲子「えっ？」
瑞穂「もう玲子さんまでぇ。いい？　皆さん、結婚において一番大切なのは、愛なんてよく分からないものじゃないの。一番大事なのはお金！　何はなくてもまずお金！　常識でしょ？」
香「そうですかぁ？」
瑞穂「そりゃそうよ。ブライダルのプロデュースなんてやってればよく分かるじゃない。結婚式の時は信じられないくらいのラブラブカップルが、１年後にはもう離婚なんてよくある話でしょ？」
香「まぁ、そうですけど･･･」
瑞穂「でしょ！　愛なんてね、いつかは冷めてなくなるものなの。でもね、お金は違う。

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

愛なんか冷めてもお金は残るの」
あい「お金だって使ったらなくなりますよ」
瑞穂「バカねぇ、だからちょっとやそっと使ったくらいじゃなくならない大金持ちと結婚するんじゃない」
香「（変に納得して）なるほどねぇ･･･」
　　　　　　　　　　　　ＳＥ　電話のベル　香が出る。
香「はい、総合ブライダルサービス「天使のつばさ」です。はい･･･はい･･･あの、少々お待ちいただけますか？」
玲子「何？」
香「馬を用意出来ますかって･･･」
玲子「馬ね、代わるわ」
　　　　　　　　　　　　香から電話を受け取り、メモを取りながら受け答えをする玲子。
玲子「はい、お電話変わりました。馬でございますね。はい、ご用意出来ます。何頭ご入用ですか？　･･･２頭でございますね。ではお客様のお名前を･･･はい、承知いたしました。それでは１度御来店いただきたいんですが･･･はい、結構でございます。お待ちしております。ありがとうございました」
　　　　　　　　　　　　玲子、電話を切る。
香「馬、ですか。」
玲子「ええ、２頭ご入用なんですって」
香「馬なんて用意出来るんですか？！」
玲子「全然大丈夫よ。近頃競馬が趣味のカップル多いでしょ。そういう依頼結構多いのよ」
香「へぇ、そうなんですかぁ」
あい「香ちゃんは、まだうちに入って１年だから知らないだろうけど､馬なんか全然平気。もっと凄いのたくさんあったわよ」
香「例えば？」
瑞穂「そうねぇ。パチンコ屋さんでナンパしたから、会場にパチンコ台８０機入れてお客さんにやらせてくれとか、動物園の飼育係の人の披露宴に、キリン用意してくれとか」
香「キリン？！　用意したんですか？！」
瑞穂「まさかぁ、さすがにキリンはねぇ、首長くて会場に入らないもの」
香「ですよねぇ」
瑞穂「でもその新郎、キリンの飼育係だったのよ」
あい「あの人説得するの、本当に大変でしたよねぇ」
玲子「そうねぇ、丸５時間くらいかかっちゃったわね」
香「へぇ･･･」
瑞穂「でもその甲斐あって、何とかキリンは諦めてくれて、白熊で手を打ってくれたのよ」
香「･･･今何て？」
あい・瑞穂・玲子「（当然のように）白熊」
香「（大声で）白熊ぁ？！」

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

玲子「ちょっと橋本さん！　急に大きな声出さないでよ。びっくりするじゃないの」
香「びっくりしたのはこっちですよ！　何でキリンは駄目で、白熊ならいいんですか？！」
瑞穂「だって白熊なら首長くないから会場に入るじゃない」
香「会場に入るサイズなら何でも入れるんですか！」
瑞穂「やぁねぇ、何でもいいわけないじゃない」
香「そう･･･ですよね」
あい「いくら会場に入ったって、ゴキブリ１００匹は嫌ですよねぇ」
玲子「全くよね」
香「当たり前ですよ！　どこの世界に、結婚式にゴキブリ･･･いたんですか？　ゴキブリの人」

３人揃って頷く。

香「嘘っ？！」
あい「殺虫剤を作っている会社の人でね、私はこういう仕事をしてますって列席者の人たちに見せたいって言うのよ」
香「･･･勘弁して欲しい」
玲子「本当よねぇ、私もそう言ったのよ。披露宴でゴキブリ１００匹殺してみせても、誰も喜びませんよ、たとえあなたの上司でもって」
あい「あの人の説得も大変でしたねぇ」
玲子「そうそう、ついにはお仲人さんにまで来て頂いたのよねぇ」
瑞穂「そうでしたねぇ。あまりに仕事熱心っていうのも考えものですよねぇ」
香「そういうの、仕事熱心って言うんでしょうか？」
瑞穂「他に何ていうの？」
香「･･･変態･･･」
玲子「橋本さん、どんなお客様に対しても、そういう言い方はいけません。あくまで仕事熱心のあまりに行き過ぎてしまったと解釈しなきゃ」
香「･･･はい」
玲子「いい？　電話でどんな無理を言われても、絶対にその場で断っちゃ駄目よ」
香「はい」
玲子「たとえお客様のご希望通りじゃなくても、白熊の時みたいに代用でＯＫって事だってあるかもしれないし」
香「･･･ですね」
玲子「だから必ず、１度ご来店をって言ってちょうだいね」
香「分かりました」
瑞穂「（時計を見て）あら、もうこんな時間？」
香「今日運命の大金持ちとデートなんですか？」
瑞穂「そうなの。ねぇ聞いて聞いて！　彼ったら凄いのよ。お父様は世田谷に１万坪の土地を持ってて、お母様は元華族の家柄。彼自身は慶応を幼稚舎から入ってて、今弁護士をしてるのね。で、乗ってる車はベンツのＳ６００！」

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

あい「１万坪！」
香「慶応かぁ。瑞穂さんはフェリスでしょ？　まさにお似合いのカップルじゃないですか」
瑞穂「でしょ！　おまけに彼ったらもの凄くかっこいいの！」
香「不っ細工じゃないんですか？」
瑞穂「やぁねぇ、違うわよ」
香「でも、不っ細工でもいいんですよね」
瑞穂「もちろんいいわよ、大金持ちならね。でも一緒に暮らすんなら、見栄えが良いに越した事ないじゃない？」
香「まぁ、そうですよねぇ」
玲子「お父様は何をなさってる方なの？」
瑞穂「皆も知ってる人ですよ」
玲子「誰？」
瑞穂「政治家の広田幸造！」
あい「えっ？　広田幸造？　･･･」
突然表情を曇らせ、黙り込むあい。
玲子「広田幸造って、今の財務大臣の？！」
瑞穂「そうなんです。将来ね、彼も弁護士辞めて、お父様の後を継ぐらしいんです」
香「じゃあ瑞穂さん、将来の政治家夫人？！」
瑞穂「まぁ、香ちゃんたらっ。でもまっ、そういう可能性もなきにしも非ずって感じかしら」
あい「･･･広田幸造･･･」
玲子「倉沢さん？」
瑞穂「あらあいちゃんどうしたの？　顔色悪いわよ」
あい「え？」
香「本当だ。大丈夫ですか？」
あい「うん、平気」
玲子「本当に？」
あい「はい、大丈夫です」
玲子「何だったら今日はもう帰ってもいいわよ」
あい「いえ、本当に大丈夫ですから」
玲子「そう？　無理しない方がいいんじゃないの？　今は悪い風邪が流行ってるっていうし、社長には私から言っておく」
あい「（玲子の言葉を遮るように）大丈夫だって言ってるでしょ！」
玲子「えっ？」
あい「･･･すいません･･･トイレ行って来ます」
立ち上がり、トイレに走っていくあい。
玲子「･･･どうしたのかしら？　倉沢さん」
瑞穂「さぁ･･･」

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

香「あいさん、女の子の日なんじゃないですか？」
玲子「そう･･･ならいいんだけど･･･」
香「そうだ、瑞穂さん」
瑞穂「おととい打ち合わせにいらした山岡さんって人、物凄い資産家の息子さんなんですよ」
瑞穂「本当？！」
香「本当です。私今まで、あんなお金持ちって見た事ないです」
瑞穂「やだっ！　私とした事が、信じられないミスだわ！　そんな大事な日に会社休むなんて！！」
玲子「（呆れたようなため息をつく）沢村さんには、今日会う運命の人がいるでしょ」
瑞穂「あら、選択肢は広い方がいいじゃないですか」
玲子「お願いだからお客様を選択肢に入れないでちょうだい」
瑞穂「大丈夫ですよ。私、人の物には全く興味ありませんから」
香「そうなんですか？」
瑞穂「当たり前じゃない。ただね、類は友を呼ぶって言うでしょ」
香「はぁ･･･」
瑞穂「つまり、お金持ちの周りにはお金持ちが集まるの。これは自然の摂理っていうものなのよ」
香「へぇ」
瑞穂「だから、人の物には全然興味ないけど、人の物の友達にはすっごく興味があるの」
香「（深くうなずき）なるほど」
瑞穂「で、そのお金持ち、次は何時いらっしゃるのかしら？」
香「担当はあいさんなんでよく分かんないんですけど、確か来週の木曜日って言ってたと思いますよ」
瑞穂「来週の木曜日ね。ＯＫ！　分かったわ」
　　　　　　　　　　　　あい、トイレから戻って来る。
玲子「倉沢さん」
あい「本当にすいません。もう大丈夫ですから」
玲子「そう？　ならいいけど」
瑞穂「（にっこりと微笑んで）あいちゃん」
あい「はい」
瑞穂「そういう時は、お腹冷やしちゃ駄目よ」
あい「はい？」
瑞穂「コーヒー冷めちゃったわね」
あい「新しいの入れてきましょうか？」
瑞穂「あらいいわよ、私が入れてくるわ。あいちゃんに暖か～いコーヒー飲ませてあげたいの」
あい「私だったらもういいですよ」

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。

瑞穂「もうあいちゃんったら。私とあいちゃんの仲で遠慮なんてするもんじゃないわ」
あい「いや、遠慮とかじゃなくって」
瑞穂「ちょっと待っててね、今入れて来るから」
　　　　　　　すばやくキッチンへ行く瑞穂。
あい「瑞穂さん！　私本当にもう･･･（玲子に）どうしちゃったんですか？」
玲子「橋本さんよ」
香「すいませ〜ん」
あい「何？」
玲子「橋本さんがおとといの山岡さんの事、沢村さんに喋ったのよ」
あい「ああ、それで」
玲子「まぁ、どうせいつか分かる事だけどね」
あい「（苦笑）そうですね」
　　　　　　　入り口から本宮　武士（３７）が入って来る。
武士「ただいまぁ」
香「あっ、社長」
玲子「お疲れ様です」
武士「お疲れ〜」
玲子「どうでした？」
武士「うん。たぶん契約してもらえると思う」
玲子「本当ですか？！」
あい「やりましたねぇ、社長！」
武士「まぁね。香ちゃん、お茶もらえる？」
香「は〜い！」
　　　　　　　賑やかな音楽がせりふにかぶり、大きくなっていく。
　　　　　　　クロスして明かりが落ちていく。暗転。

続きはあらすじ（ホームページ内　http://www.supercomplex.net）をご覧下さい。

※本内容の全ての著作権は夢野さくらにあり、無断で使用すること、転載・複製を固くお断りします。